中村設計新聞

第三号

五月十六日(土)曇り 時々 雨

京都市内からバスで一時間半、京都府中央部にある美山町へ研修に行きました。豊かな自然とかやぶき民家を見学しました。

伝統的建造物群保存地区である京都府美山町へかやぶき民家の見学に行きました。

日本の古き建物の工法や知恵、かやぶき民家を維持されている人々の努力に触れてきました。

見学コース

①かやぶきの里
ボランティアガイドツアー
←
②自然文化村
かやぶき民家にて昼食
←
③創作重ね絵

美山町
～「かやぶきの里」を訪れて～

美山町は京都府中央部に位置し日本海に注ぐ由良川の上流にあります。茅葺民家集落を中心に由良川北岸水田を含む範囲について、国の伝統的建造物群保存地区の指定を受けています（一九九三年）。北側に山並みを背負い、南側に石垣で固めた階段状の屋敷地が連続し、その石垣と主屋等茅葺屋根が特徴の山村景観を形成しています。

伝統的建造物保存地区の指定は、町並みの歴史・建築物の特質・景観の現況を調査報告書としてまとめ、条例の指定後申請を行い、国の文化審議会を経て選定されるものであり、行政からの一方的な指定ではなく官民一体の保存活動から指定されるものです。全国八〇件を超える指定地があり、京都市内四件、京都府下三件の指定地があります。

地元のボランティアガイドツアーの方にかやぶきの里を案内して頂きました。年に２回、放水銃の一斉放水眺めることができます。

○かやぶきの里
ＴＥＬ：0771-77-0587
ＵＲＬ：http://www.kayabukinosato.com/

京都府下において、茅葺屋根の建築は現在においても広範囲に見られますが、「かやぶきの里」のように五〇戸（茅葺屋根は三八戸）と集中している地域は少なく、今では昔ながらの民家集落の風景は非常に珍しいものとなっています。

茅葺屋根は現代の生活形態にはそぐわなくなってきていること、茅がないこと、職人がいないこと、屋根葺替が７～８００万円と言う高額な工事費であること、国・府・市の補助金があったとしても保存及び維持するには非常に困難です。

この地を訪れ、単なる観光地として観るのではなく、日本の山村集落として貴重な原風景を保存・維持するための人々の努力に敬意を払うと共に、現在我々が忘れていこうとしているものに対する是非と警鐘を感じ取るべきではないかと思いました。

レポート・岩田　信一

～日本の原風景　美山町～

国の伝統的建造物群保存地区に選定され、現在では滅多に見ることができない茅葺屋根の集落がある美山町。深い山々に囲まれ、田園が広がり、町には様々な花が咲き誇っています。たくさんの自然に包まれ、今も尚、日本の原風景をとどめています。

私は、三五年程前まで、茅葺屋根で土間や五右衛門風呂がある家に住み、牛や鶏の世話をしながら生活をしていました。美山町の風景は非常に懐かしく感じ、心地良い一時を過ごせました。

少し残念なのが、保存されているのが茅葺屋根の外観だけで、内部は現在の住宅と変わらないことです。民家の周りにも色々な野菜が植えてありましたが、手入れが行き届かず草が生え放題の畑があり、新緑の山には雪害による折れた樹木が多く見られました。

時々朽ち果てた茅葺屋根の民家跡を見かけますが、今回の研修で改めて維持管理の苦労を知ることができました。

レポート・河原　邦治

自然文化村
～かやぶき民家での食事～

自然文化村では、美山町の郷土料理を美味しく頂きました。

民家の中には囲炉裏があり、食後に皆で周りを囲んで話した会話は、いつもと雰囲気が違い暖かい気持ちになりました。

いつも以上に所員との距離が縮まりました。

美山町　アンケート

研修後、所員に今回訪れた美山町についてのアンケートを行いました。

かやぶき民家について一番興味深かったことは、十二人中・九人の方が茅の葺替えと回答しています。

茅の葺替えには、８００万円程の費用がかかるため、印象に残り興味を持たれたようです。

茅葺民家を利用した感想

・一般住宅とは違う開放感があり、時の流れが遅く感じられた。
・茅葺民家の利用は初めてだったが、畳に寝転がった時に安らぎの様なものを感じた。
・冬季の生活を思い、厳しい中で生活を続けてこられた先人に頭が下がる思いがした。
・囲炉裏があったので癒された。
・とてもリラックスできる空間だった。
・茅葺屋根＝天井が高いイメージだったが、意外と一般的な高さだった。

私自身、茅葺の民家を肌で体感するのは初めての経験でした。西洋の建物とは違い、畳に座り、目線がいつもより低くなることで、室内が広く感じられ、日本家屋の良さを感じることができました。

中之島の建物見学同様、古き良い建物のすばらしさ、その建物を維持・管理することの難しさを改めて認識することができました。

創作重ね絵

自然文化村のかやぶき民家で昼食後、班に分かれ、創作重ね絵を作りました。

創作重ね絵とは背景・建物・人物や植物を一人一人それぞれが透明のシートに貼絵やペン、摘み取った草木などで描き、それを重ね合わせて一つの絵を完成させます。

天気は生憎の雨模様でしたが、美山町の美しい風景を各班さまざまな重ね絵にして残していました。

研修前に研修委員で試作品を作ったりと準備が色々と大変でしたが、研修後のアンケートでチーム内のコミュニケーションが取れ、おもしろかったと言う意見を多く聞くことができました。一つの物をチームを組み、創作することで普段とは違う団結力が生まれました。

最優秀賞

美山町の研修終了後、事務所内で重ね絵コンテストを開き、所員に良いと思った作品に投票してもらいました。

投票結果の末、僅差で自然文化村のかやぶき民家から見た風景をおさめた作品が見事最優秀賞に選ばれました。

○投票結果
最優秀賞：Ａチーム…６票　３位：Ｄチーム…３票
２位：Ｂチーム…５票　４位：Ｃチーム…２票

グリーンカーテンで夏涼しく

近年、地球温暖化が進み、気温上昇が目立ちます。特に夏場は、直射日光と共に室内の気温も高くなります。そこで、ゴーヤでグリーンカーテンを作り、少しでも夏の暑さを和らげることで、わずかではありますが、エコ活動に取り組んでいきたいと思います。

そして、実ったゴーヤを昼食や土曜研修で頂き、夏バテ対策にも役立てたいと考えています。

グリーンカーテンとは

グリーンカーテンとは、アサガオやゴーヤと言ったつる性の植物を窓の外に這わせて、夏場の室温の上昇を抑えて省エネを図る自然のカーテンの事です。

中村設計では害虫が寄りにくく、育てやすいゴーヤを選びました。

グリーンカーテンの具体的な効果

○通常のカーテンやすだれと同じく遮光効果があります。
○葉が蒸散することで周りの熱を奪うため、涼しい風が流れ込みます。
○室温の上昇が抑えられることで、エアコンの使用量を抑えられ、電気代の節約と地球温暖化の防止に繋がります。
○周囲に緑を増やすことができます。
○夏休みの自由研究にも最適です。

ゴーヤの成長記録

ゴーヤを育て始めて、一日一日、目で分かり、驚く程成長しています。

そして、ゴーヤを植えてから２週間で花が咲きました。小さいですが、実も実って付いています。

毎日、ゴーヤの成長を楽しみに出社しています。

ゴーヤの成長する姿を見て、生命力の力強さを日々感じています。

少しでも省エネ対策になるよう、今後の成長を見守りたいと思います。